

# 第1学年C組 保健体育科授業案

場所 運動場  
授業者 山本 泰弘

## 1 単元 めざせトップスピードバトンパス リレー（アスリートへの道・陸上競技）

### 2 単元の構想

#### (1) 本単元で成長する子どもの姿

45mバトンパス対決に出会った子どもは、より早くゴールするためにタイムを縮める方法を追究する必要性に気づき調べ始める。スピードにのったバトンパスを追究する必要性を実感した子どもは、調べたことをもとに練習内容を考え、チームで練習に取り組む。ねらいをもって練習を組み立てることで、よりよい動きに近づいていくことを実感した子どもは、調べて学んだことや気づいたことを練習に活用する価値に気づき、今後も調べる活動を取り入れながら、練習を考え、運動に関わっていく。

#### (2) 保健体育科としての学び

本学級の子どもは、スポーツ吹き矢では、みんなが楽しむためにルールを変えたり的の形を考えたりするなど、運動への取り組み方を工夫することを経験している。また、ストリートハンドボールでは、自分たちの試合を撮影し、その映像をもとに動きのよさや足りなさを認識し、作戦や戦術を考えながらゲームを行う経験をしてきた。しかし、その運動に必要な技能を見極め、よりよい動きに近づくために、自分たちで練習内容を考えていく経験はまだ不足していると考えられる。練習内容を考えるためには、必要な技術を知ったり、習得するための練習方法を知ることが有効な手段の一つであり、それらを調べることで練習を考えることができる。そこで、本単元では、バトンパスについて調べる活動を取り入れる。スピードにのったバトンパスをするために、調べたことをもとに自分たちで練習を組み立てる経験を積み重ねていく。より良い動きに近づくために、練習の内容を考える機会としたい。

45mバトンパス対決では、走者のもちタイムによってスタート位置をずらし、計算上はゴールが同時になるようにルールを変更する。そうすることで、競争意識が高まり、スピードにのったバトンパスを追究していく必要性に気づくであろう。また、チーム対抗戦にすることで、仲間と協力しながら練習に取り組むことが大切になる。スピードにのったバトンパスをするためには、ペアで適切なダッシュマークの位置を調べたり、走順を組み替えたり、声のかけ方、手の出し方のタイミングを合わせたりしていくことが大切である。追究する課題がはっきりしていることで練習内容が明確になり、また、その結果もタイムや対戦結果でわかるため、練習の成果をすぐに実感することができる。また、オーバーハンドパスとアンダーハンドパスのどちらが自分たちにあるかを追究していくことにも、面白さ味わうことができる種目である。

#### (3) 子どもが「学んだこと」を見つけ出すための教師の営み

出会う段階では、試しのゲームをさせることで、チームの勝利のためには、タイムを縮める方法を追究する必要性に気づき、バトンパスに必要な技能や方法が何かを調べ始める。

深める段階では、調べたことをもとに各チーム練習内容を考える。毎時間、「ダッシュマークの位置を調べる」「一番早い走順を考える」「アンダーハンドとオーバーハンドのどちらが速いのかを試してみる」など、チームの課題に応じて内容を考え練習する。必要に応じて映像を利用して動きを確認したり、再度調べる活動を取り入れたりしながら、より良い動きに近づけていく。練習のなかでタイムを計測したり対戦を繰り返したりすることで、自分たちの動きの良さや足りなさを実感し、さらに練習内容を変更したり、調べたりしながら、記録向上のための追究をする必要性を実感する。

つなげる段階では、90mバトンパス対決を実施する。子どもは、対戦結果や測定タイムから練習した成果を実感することで、調べて学んだことや気づいたことを練習に活用する価値に気づき、今後もよりよい動きに近づけるために調べる活動を取り入れながら練習を考え、運動と関わっていこうとする。

3 単元構想表（8時間完了）

主なはたらきかけ	<input type="checkbox"/> 思い・考え <input checked="" type="checkbox"/> 「学んだこと」 <input type="checkbox"/> 子どもの行動	保健体育科で重視する力	
<p>出会う</p> <p>試しのゲームをさせることで、スピードにのったバトンパスを追究する必要性を実感し、調べ始める。</p> <p>グループごとにバトンパスについて調べる機会を設けることで、練習すべき内容が明確となり、チームにあった練習内容を考える必要性を実感し、チーム練習に取り入れ始める。</p> <p>チームの練習計画書を掲示することで、他のグループを意識しながら、自分たちにあったバトンパスを極めていく必要性を実感し、タイムを測ったり、映像で動きを確認したりしながら練習に取り組む。</p> <p>兄弟チームで指摘し合う場面を設けることで、チームの足りないところを克服する必要性を実感し、再度調べたり練習したりする</p> <p>つなげる</p> <p>高めてきたバトンパスを用いて90mバトンパス対決を行い、勝敗を競ったり、タイムを測定させたりすることで、調べたことを活用する価値に気づき、新しい運動に出合った時にも、調べる活動を取り入れながら、練習内容を考えていく。</p>	<p>スポーツ吹き矢では、ルールを工夫してみんなで楽しめた      ストリートハンドボールでは、作戦を立てる大切さがわかった</p> <hr/> <p>45mバトンパス対決はどんなスポーツかな 1～2時</p> <p>スタート位置がずれているから、走力はあまり関係ないぞ      バトンパスの良し悪しが勝敗に大きく左右するぞ      チームの対戦だから、みんなであまくならないといけない</p> <p>いろいろな組み合わせを試して相手に勝てるようになりたい      タイムロス減らす方法を考えないといけない      どういうバトンパスがいいのか、チームで考えたい</p> <p>バトンパスを極めていかないといけない</p> <p>調べる① 3時 バトンパスの技術や方法、練習の仕方について調べる ○オーバーハンドパス    ○アンダーハンドパス    ○ダッシュマーク ○スタートの構え方    ○声のタイミング    ○手のタイミング</p> <p>スピードにのったバトンパスができるように練習しないといけない</p> <p>チームにあったバトンパスを極め始める 4～7時間</p> <p>第2走者が走り出すタイミングを探っていこう      オーバーハンドとアンダーハンドのどちらがいいのかな      どの組み合わせが速く走れるか考えないといけない</p> <p>もっとスピードにのることができたら、タイムが縮まるぞ      両方のパスを試してタイムで比較してみよう      タイムを計りながら、組み合わせを決定していこう</p> <p>映像で調べてみるとスタートの時の構えがわかったぞ      上手な人の動画から、手を出すタイミングがわかった      タイムの遅い人からタイムの速い人へのパスが難しい</p> <p>相手に勝つためには、トップスピードでのバトンパスをすることが大切だ。そのためには、タイムが早い順に走るのがよい</p> <p>90mバトンパス対決でリーグ戦を行う 8時間</p> <p>力を試すためにたくさん試合をしたい      極めてきたバトンパスで勝ててうれしい      対戦相手によって組み合わせを変えよう</p> <p>バトンパスを極めることで、もちタイムよりも早くゴールすることができる。調べたことを活用すると自分たちにあった練習が考えられ、上達することができる</p> <p>より良い動きを求めながら練習を工夫していく</p>	<p>☆運動を認識する力 ・バトンパス対決に勝つために必要な技能が何か気づく。</p> <p>☆運動を認識する力 ・練習を見合ったり、タイムを測定することで、チームのよさや足りなさに気づく。</p> <p>☆運動を認識する力 ・チームの課題を克服するために、調べたことをもとに練習内容を考える。</p> <p>☆運動を認識する力 ・練習内容を考えることで、よりよい動きに近づいていけるよさに気づく。</p>	
	<p>チームの課題を見つけたり解決するためには、調べることも大切だ。よりよい動きに近づいていくために、今後も調べる活動を取り入れながら、練習内容を考え運動に取り組んでいきたい。</p>	<p>チームの課題を見つけたり解決するためには、調べることも大切だ。よりよい動きに近づいていくために、今後も調べる活動を取り入れながら、練習内容を考え運動に取り組んでいきたい。</p>	

#### 4 本時の構想 (6/8)

45mバトンパス対決に出会った子どもは、スピードにのったバトンパスを追究する必要性を実感し、バトンパスに必要な技術を調べたり、上手な人の映像をからバトンパスのコツを探り始めた。調べたことをもとに自分たちのチームに必要な練習を考え、タイムを計ったりチーム内の仲間と見合ったりしながら練習に取り組んでいる。

本時では、前時でうまくいかなかったことをもとに、各チーム練習内容を考えながら活動を進めていく。お互いに見合う活動を促したり、タイムを計測させたりすることで、スピードにのったバトンパスに近づけさせたい。授業の後半で対戦することで、バトンパスが上手になっていることを実感したり、新たな克服すべき課題を発見し、さらに練習を考えていく必要性に気づくであろう。そして、さらに記録の向上を求めて練習に取り組んでいく。

